

ID _____ 患者氏名 _____ 様 (性別 _____)

身長 _____ cm 体重 _____ kg 年齢 _____ 歳 体表面積 _____ m²

HBs 抗原 (+ -) HBc 抗原 (+ -) HCV 抗体 (+ -)

薬剤	投与量	投与日			4 週間毎
		1～2 コース目		3～6 コース目	7 コース目～
		Day 1・・8・・15・・22・・29		Day 1・・8・・15・・22・・29	Day 1・・・・29
ダラキューロ (皮下注)	1800mg/body	↓ ↓ ↓ ↓ (毎週)		↓ ↓ (2 週毎)	↓ (4 週毎)
エンドキサン (内服)	300 mg/m ² 1～6 コース目のみ 最大 500 mg	↓ ↓ ↓ ↓ (毎週)		↓ ↓ ↓ ↓ (毎週)	
ボルテゾミブ (皮下注)	1.3 mg/m ² 1～6 コース目のみ	↓ ↓ ↓ ↓ (毎週)		↓ ↓ ↓ ↓ (毎週)	
デキサメタゾン	40mg/ body/週	↓↓ ↓↓ ↓↓ ↓↓ 1～2 コース目 Day1,2, 8,9, 15,16 22,23 3～6 コース目 Day1,2, 8, 15,16 22		↓↓ ↓ ↓↓ ↓	↓ Day1 20mg 内服

70 歳を超える又は過少体重 (BMI 18.5kg/m²未満) の患者ではデキサメタゾンを 20mg/週で投与することも可。その際はダラキューロ投与前に 20mg を投与。

レジメンオーダ以外に必要な処方

ダラキューロ投与日：デキサメタゾン 20mg (内服)、レスタミン (10) 5 錠、カロナール (200) 5 錠、モンテルカスト (10) 1 錠

ダラキューロ投与 1～3 時間前に内服 (臨床試験ではモンテルカストは初回のみ)

エンドキサン(50) 300 mg/m² 1×朝食後 day1、8、15、22 (1～6 コース目のみ)

デキサメタゾン 20mg (内服)処方日：上記とは別に下記で投与

1～2 コース目 day 2、9、16、23

3～6 コース目 day 2、8(40mg)、16、22(40mg)

必要時：アシクロビル、フェブリック、ダイフェン(バクタ)

注意事項

ダラキューロ

インフュージョンリアクション (気管支痙攣、蕁麻疹、低血圧、意識消失、ショックなど) に注意。

クームス試験に影響を与えるため、ダラキューロの投与をすることを検査科へ連絡してください。

ダラキューロのインフュージョンリアクションの発現中央値は約 4 時間のため、皮下投与終了後 3～4 時間は症状発現に注意すること

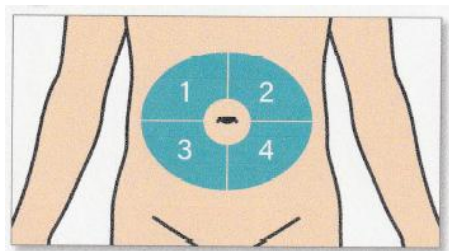
シリンジに分取後、4 時間以内に使用すること。

ボルテゾミブ

調製後、8 時間以内に使用すること。

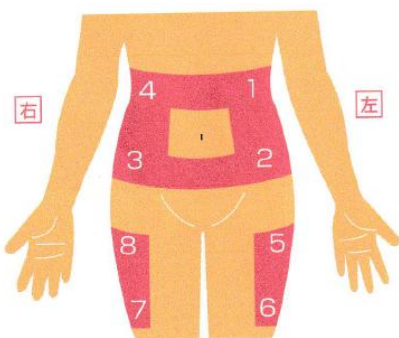
(次ページあり)

皮下注部位はローテートすること



ダラキューロ投与部位の例

臍から左または右に約 7.5cm 離れた腹部皮下に投与する



ボルテゾミブ投与部位の例

皮下投与の部位：左右の腹部等に交互に注射するなど、前回と同じ部位への投与は避けること（皮下脂肪組織の萎縮や硬結をきたして、薬液の吸収が悪くなることもある。また皮膚の炎症などを起こす可能性が高くなる）

ダラキューロ投与方法	
1	デキサメタゾン 20mg、レスタミン（10）5錠、カロナール（200）5錠、モンテルカスト（10）1錠 内服 （臨床試験ではモンテルカストは初回のみ）
2	1～3 時間空ける
3	<u>ダラキューロ 1800 mg/15mL</u> 、皮下注 約 3～5 分かけて投与

ボルテゾミブ投与方法	
1	（臨床試験ではダラキューロの後に投与されていました） ボルテゾミブ _____mg, 皮下注 皮下注の場合：1V（3mg）あたり生食 1.2mL で溶解し、適量を使用